

令和8年8月千葉豪雨等の被害状況
現地調査結果報告(国土技術政策総合研究所)

令和8年9月18日

水災害調査・対策検討委員会(第1回)
国土技術政策総合研究所 下水道研究室、水害研究室

目次

1. 調査対象箇所と調査目的について

2. 調査報告(下水道研究室)

①蘇我駅周辺(千葉市内)

②千葉大医学部附属病院周辺

③柏市東柏周辺

3. 調査報告(水害研究室)

④千葉県大網白里市金谷川



調査対象箇所と調査目的

- 調査の目的: 千葉豪雨により内水浸水被害が報告された箇所を確認し、内水浸水想定区域図との差異を確認
- 調査日程: 令和8年8月27日
- 調査対象自治体: 千葉市、柏市



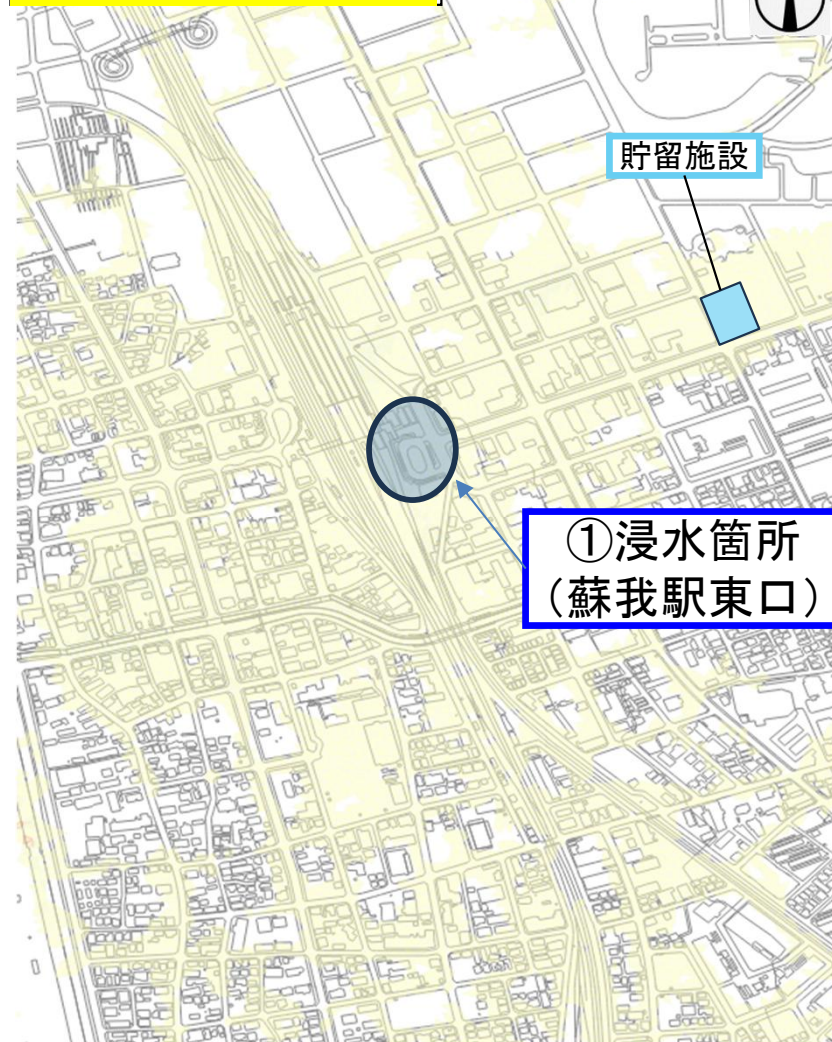
国土交通省
国土技術政策総合研究所

National Institute for Land and Infrastructure Management,
Ministry of Land, Infrastructure and Transport

現地調査(千葉市 蘇我駅周辺)

- ・蘇我駅東口の上流側の菰池公園で時間雨量65mm/h対応の貯留施設を作ったが満水となった。
- ・蘇我駅東口周辺は浸水常習地帯であり、今回の豪雨でも浸水が発生した。

浸水想定区域図のみ



■①での浸水時の様子



■①での現地調査時の様子



■蘇我駅東口周辺の様子



浸水深 (想定最大規模)

概ね1,000年に1度起こりうる降雨により、既存の排水施設で処理しきれない内水が氾濫した場合に、想定される浸水区域及び水深を表示しています。
※対象範囲：都川流域、蘇我地区ほか、村田川流域、浜田川流域、印旛放水路流域、草野地区ほか、生実川流域、浜野川流域、鹿島川流域

0.01m以上0.5m未満	
0.5m以上1m未満	
1m以上2m未満	
2m以上3m未満	
3m以上5m未満	
5m以上10m未満	

■内水浸水想定区域(想定最大降雨153mm/hの降雨時)

現地調査(千葉市 千葉大医学部附属病院周辺ほか)

- ・地下施設等への浸水被害が報告された大規模施設(病院やショッピングモール)については、内水浸水想定区域に敷地境界が接しているが、敷地内の浸水想定は必ずしも表現されていない場合もあった。
- ・内水浸水想定区域図作成にあたり、地表面の標高データは、航空レーザ測量や写真測量(約2mメッシュ)を基にしており、大規模施設等による局所的な地形の改変や大規模建築物の整備等は必ずしも表現できていない。

千葉大医学部附属病院周辺



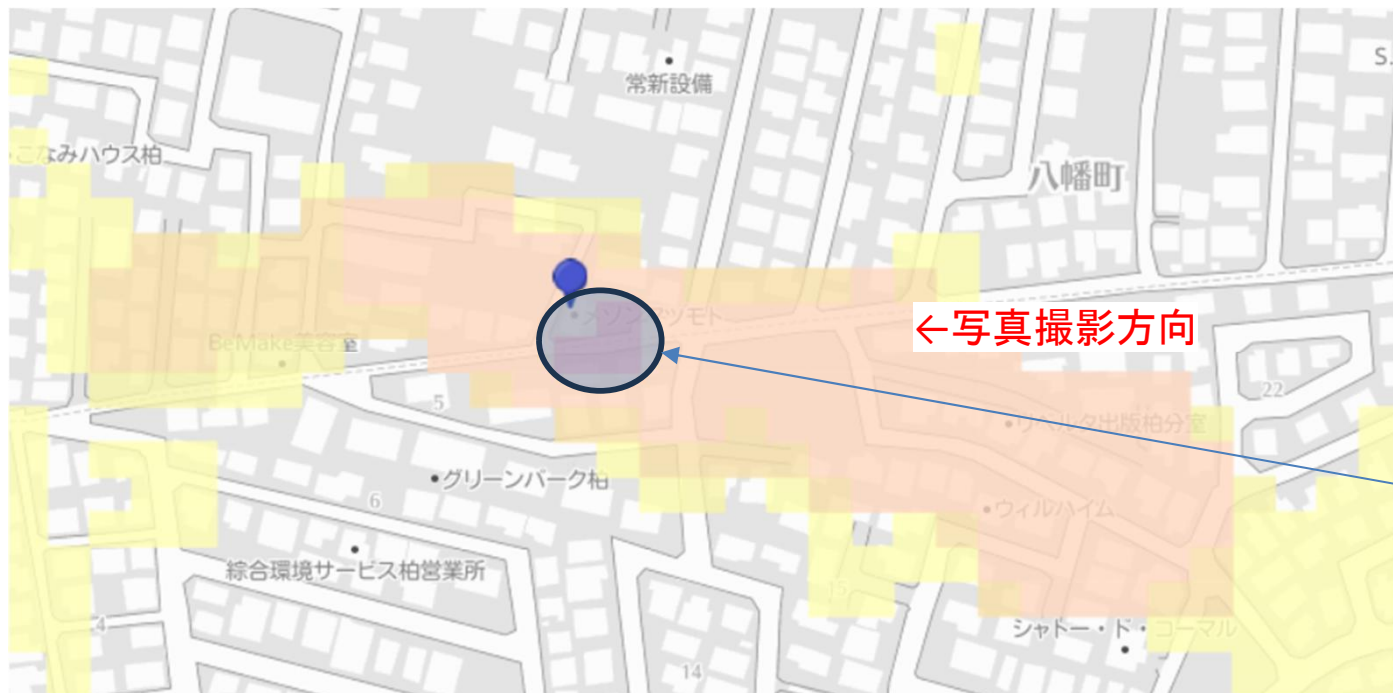
■内水浸水想定区域(想定最大降雨153mm/hの降雨時)

ショッピングモール周辺



現地調査(柏市 東柏周辺)

- ・柏市では、最大時間雨量は92mm/h、総雨量は298mmを観測。
- ・今回浸水した箇所は概ね内水浸水想定区域図通りである。
- ・下記の浸水想定図の赤色部分で、死者1名の事故が発生。
- ・当該箇所は窪地となっており、事故はある程度水位がある状態で車が侵入することで発生。
- ・本区域は当面の対応として注意看板の設置、管路内の水位計や浸水センサの設置を進める予定である。また、浸水センサと連動して点灯するパトライトを設置する予定である。



■内水浸水想定区域(想定最大降雨153mm/hの降雨時)

0.1～0.3m未満の区域 0.1 to 0.3m flood area	1.0～3.0m未満の区域 1.0 to 3.0m flood area
0.3～0.5m未満の区域 0.3 to 0.5m flood area	3.0～5.0m未満の区域 3.0 to 5.0m flood area
0.5～1.0m未満の区域 0.5 to 1.0m flood area	5.0～10.0m未満の区域 5.0 to 10.0m flood area

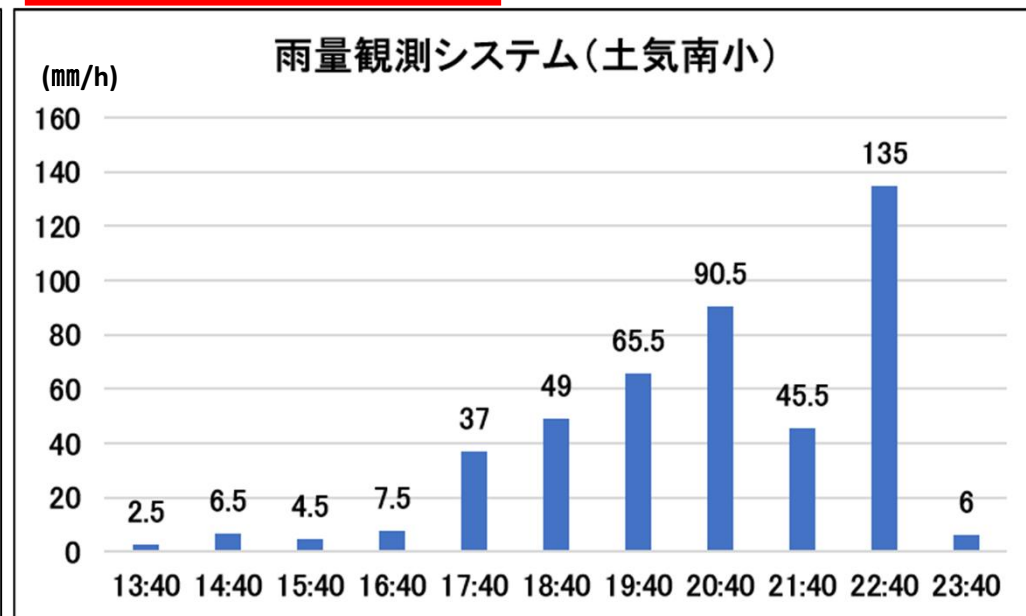
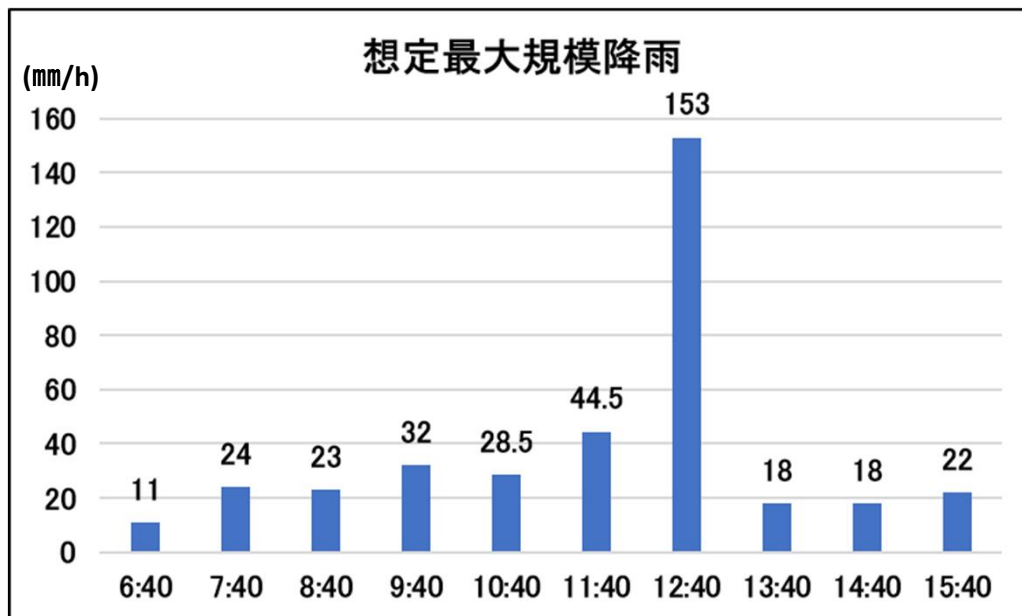


③局所的な窪地

(参考) 千葉市における降雨量

- ・内水浸水想定区域図を作成した際の想定最大降雨は、既往最大降雨の波形＋ピーク時を153mm/hに引き延ばしたものを使用。
- ・市内での最大時間雨量は、土気南小学校で135mm/hを観測。

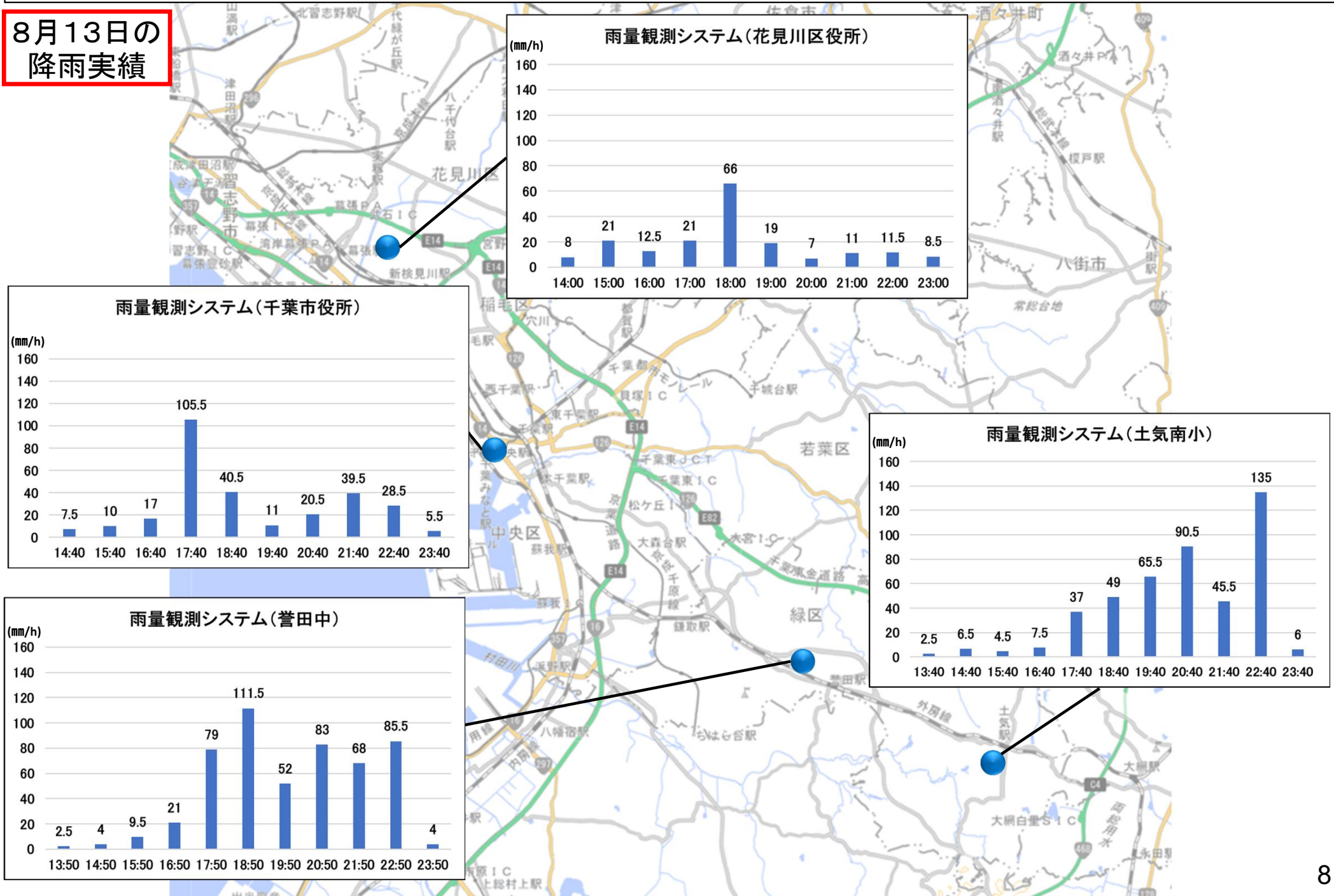
8月13日の降雨実績



(参考) 千葉市における降雨量

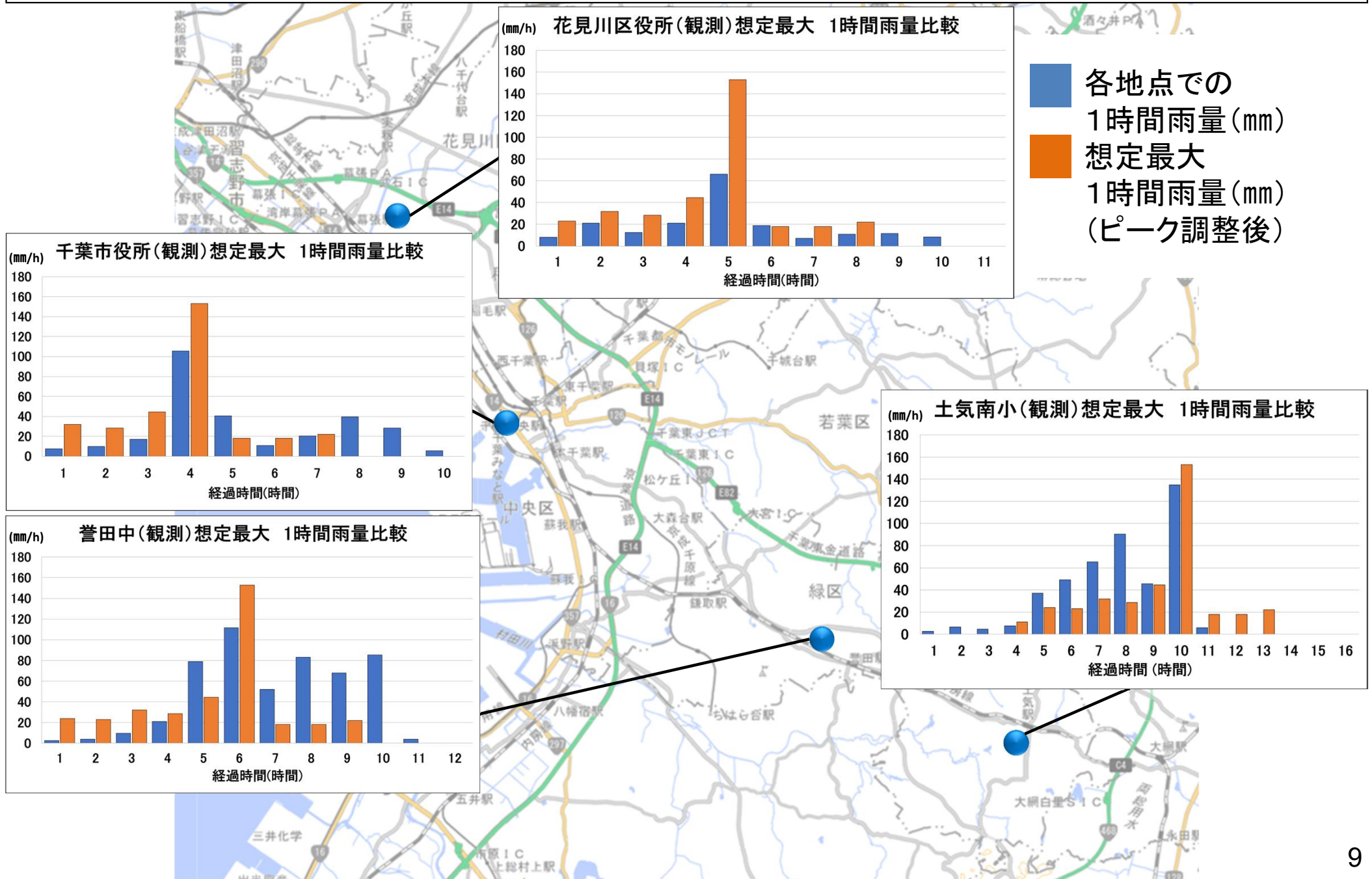
・今回の豪雨では、どの地点も想定最大規模降雨のピーク時の153mm/hに達していない。

8月13日の
降雨実績



(参考) 千葉市における降雨量

・今回の豪雨は降雨継続時間が長く、各地点の降雨実績と浸水想定を重ね合わせると、ピーク時前後の時間帯の降雨量は想定最大降雨を上回っている傾向にあることが分かる。



令和8年千葉豪雨 災害調査結果(速報)
千葉県大網白里市金谷川

調査の概要

- 洪水浸水想定区域外で浸水が発生した、千葉県大網白里市金谷川(下図)を対象に、浸水要因の調査を行った。
- 同エリアでの浸水被害は、令和に入って3回目。今回が最も被害が大きいとのこと。(市担当者の情報)
- 調査後、同エリアが再び浸水被害を受けている(9月7日)。

■調査日

令和8年9月2日(水)

■調査箇所

千葉県大網白里市金谷川流域
(詳細は右図に示すとおり)

■調査目的

洪水浸水想定区域図外にもかかわらず、浸水が生じた区域の氾濫プロセスを明らかにすること

凡例

- : 雨水出水浸水想定区域 作成対象区域



- : 浸水推定範囲

「©Synspective ALL RIGHTS Reserved」
本内容は内閣府で実施する「令和8年度小型SAR衛星コンステレーションの利用拡大に向けた実証」の成果です。

8月14日 15時7分 撮像

8月14日 9時22分 撮像

8月14日 7時35分 撮像

- : 浸水想定区域
(洪水浸水想定区域、雨水出水浸水想定区域)

20m~

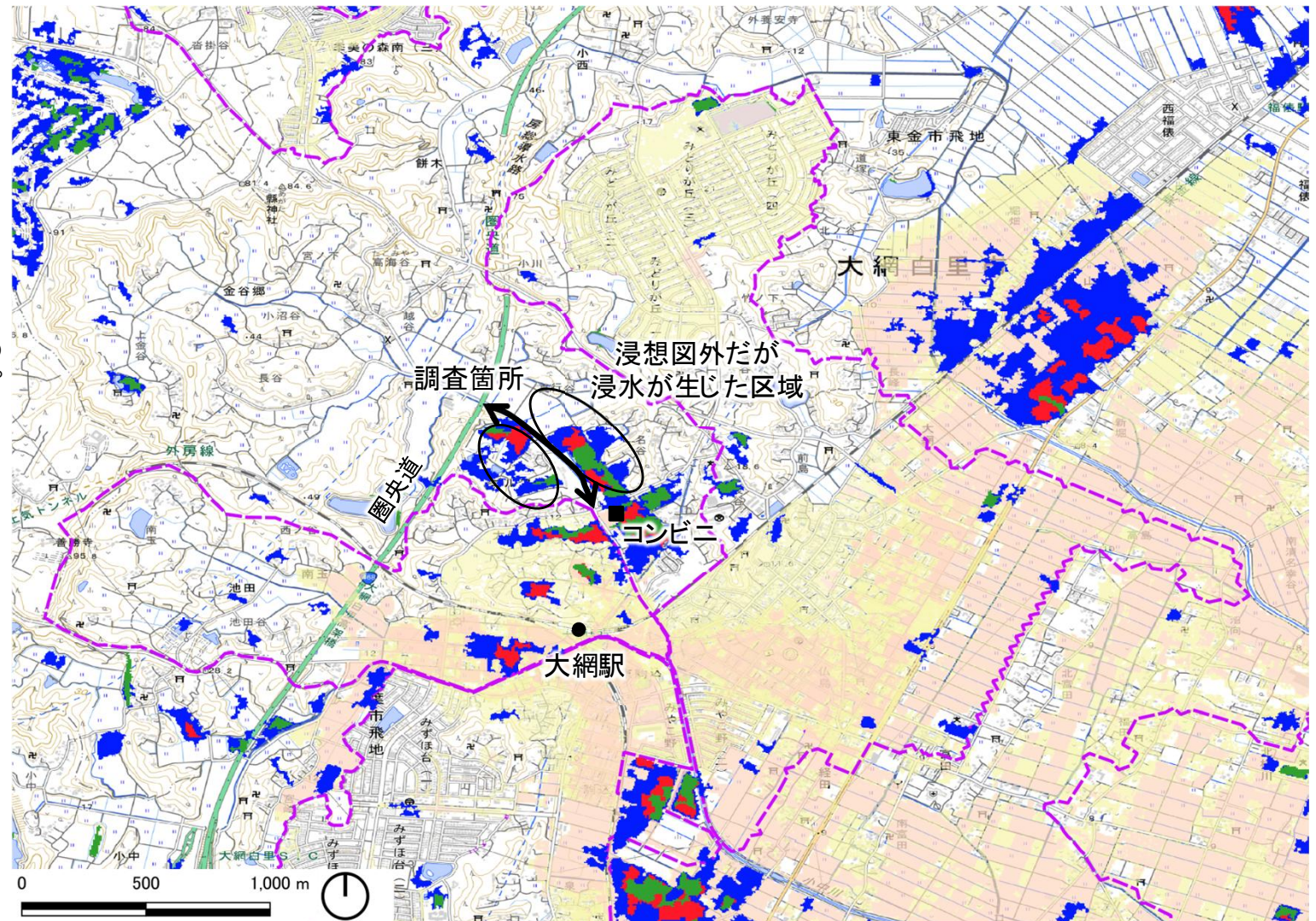
10~20m

5.0~10m

3.0~5.0m

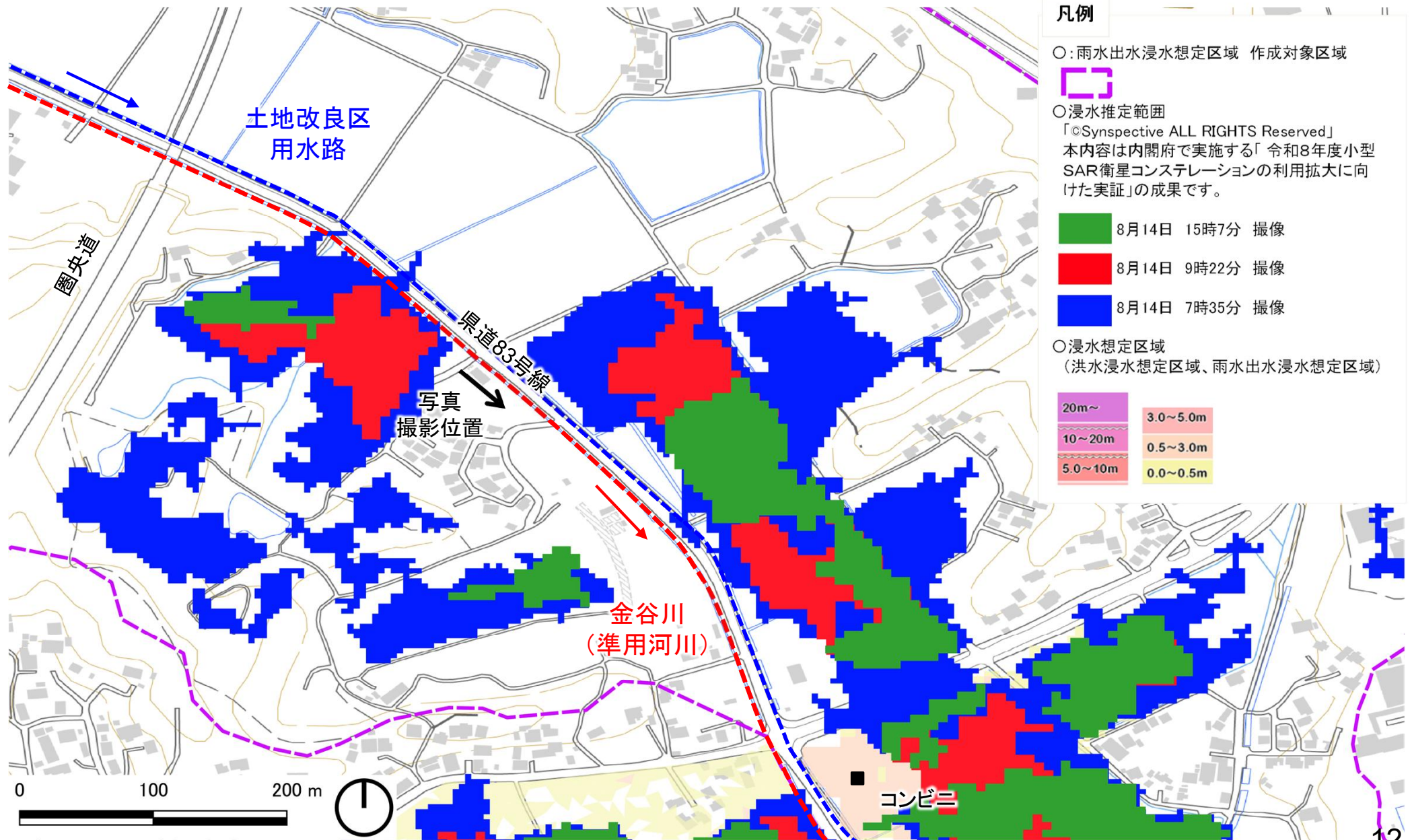
0.5~3.0m

0.0~0.5m



調査地域の概況

- 県道83号線に沿って、西側に金谷川(準用河川:市管理)、東側に土地改良区用水路が流れている。
- 両者は別系統だが、暗渠により離散的に両者が接続されている。



調査地域における氾濫の状況

- 金谷川を横断する橋梁部には草本が多く堆積。痕跡の付着状況から河川からの氾濫が確認できる(写真1)。
- 調査箇所ほとんどで、県道83号線と土地改良区用水路間のガードパイプに痕跡(草本)の付着を確認(写真2)。
⇒痕跡(草本)は、ガードパイプの上流側面・道路側面に捕捉されていることから、金谷川左岸側では県道83号線の道路法線に対し斜め方向の氾濫流(図中、青矢印)が生じていたと考えられる。
- 痕跡高は目視で路面高+0.3m程度。



調査地域における氾濫の状況

- 用水路近傍の水稻が、長い縦断区間で倒伏(写真3)。
- 上流の圏央道付近でも氾濫の痕跡を確認。痕跡の付着状況は下流側(p.13)と同様(写真4)。
- 長い縦断区間で氾濫流が県道83号線、土地改良区用水路を横断していたと考えられる。
- 以上を総合すると、氾濫流(金谷川からの氾濫を含む)は、県道83号線上の流下を伴いながら、土地改良区用水路や水田へと横断方向に拡大していったと考えられる。



被災要因について

現地調査した4カ所において、想定される主たる浸水要因は以下のとおり。

①蘇我駅周辺（千葉市内）

⇒ 排水能力を超過した降雨による氾濫が主要因とみられる

②千葉大医学部附属病院周辺

⇒ 排水能力を超過した降雨に加え、施設内の低地部分に雨水が浸入したことが要因とみられる

③柏市東柏周辺

⇒ 排水能力を超過した降雨に加え、住宅地内の道路の窪地において冠水が顕著となったことが要因とみられる

④千葉県大網白里市金谷川（準用河川）

⇒ 金谷川からの氾濫や、氾濫流の道路上の流下が、浸水域拡大の主要因とみられる